

## 4月から社会人としての第一歩を踏み出すために キャリアカウンセラーを講師に迎え、ビジネスマナー講習を受講しました

自動車システム工学科2年生では、株式会社JMTC弘前教室様のキャリアカウンセラーである藤田雄己氏を講師にお迎えして「ビジネスマナー講習会」を実施しました。講習会では社会人としての心構え、身だしなみ、敬語の使い方、電話やビジネスメール等のマナーについて学びました。また、グループワークでは、『ハウ・レン・ソウ』のポイントや顧客意識の重要性（お客様と仕事をする際のポイント）など、日頃から気を付けていることの再確認をしていました。4月から社会人としての第一歩を踏み出す学生達には、内定先で今回学んだことを役立ててほしいと思います。



## 自動車システム工学科で学んだ2年間の集大成 3月に実施される2級自動車整備技能登録試験に向けて勉強中

自動車システム工学科2年生は、3月26日に実施される2級自動車整備技能登録試験に向けて、今まで学んだ内容の総まとめとして受験対策に取り組んでいます。試験日まで残り1ヵ月を切りましたが、全員の合格を目指してクラスが団結し、みんなで支え合いながら頑張っています。今年も全員が合格し、9年連続で達成できるよう期待しています。



## 県内企業への就職内定率は100% 自動車システム工学科学生全員の進路が決定(就職内定率16年連続100%)

自動車システム工学科2年生は、令和4年9月に全員の就職が内定しました。令和4年度の入校生からは、インターンシップ先を多くの企業の中から2社選択できるので、就職後のミスマッチをなくし、早期離職を防ぐ取り組みをしています。

青森三菱ふそう自動車販売株式会社 内定



三浦 寛斗

弘前東高等学校卒業

私は1年次に、青森三菱ふそう自動車販売株式会社で2週間のインターンシップに参加しました。社員の方々と一緒に様々な業務を経験させていただき、実際の現場ではとても学ぶことが多く、その経験が就職先の決め手となりました。

弘前高等技術専門校の自動車システム工学科では、実学一体の分かりやすい授業内容や、ディーラーの方が講師となる先端技術講習もあるので、自動車整備士を目指すにはとてもおすすめです。

就職後はまず、車検を完璧にできるようになり、その後は自動車検査員の資格を取りたいと考えています。



モノづくりは人づくりから 地域に根差した職業能力開発校をめざして

## 県産材の魅力と数寄屋造りなど 伝統技術を若い世代に伝える職業講話を受講しました

建築システム工学科では、木造建築の技能を身に付けた優れた大工技能者の育成を目的として、建築構造、工作法、仕様積算、設計製図、機械操作施工方法などの知識と技能を習得し、建築工法に対応できる人材を育成しています。

今回の職業講話では、県産材を使った家づくりや数寄屋造りをはじめとする伝統技術を若い世代に伝えるなど、後継の人材育成に尽力している株式会社大山建工代表取締役社長である大山慎司氏を講師に迎え、今後、進路選択をしていく建築システム工学科の1年生の学生を対象に、数寄屋建築を通して若手職人が技術を磨き、経験を積むプロセスと建築現場での心構えについて、どのようなことを心掛けて働いていけばよいか、会社での事例を提示していただきながら講話を行いました。受講した学生からは、「初めて数寄屋というものの存在を知りました。書院造りに茶室を取り入れた昔ながらの住宅形式の伝統的な数寄屋造りを今もなお、現代に引き継いでいるということがとても素晴らしいと思いました。」などの感想がありました。



### 職人への心構え学ぶ

弘前高等専修学校 数寄屋造りなど講話  
弘前市弘前高等専修学校(外崎校長)で20日、建築システム工学科1年向けの職業講話が行われた。大山建工(八戸市)の大山慎司社長を講師に、数寄屋造りなどの伝統技術や職人としての経験を積むための心構えなどを学んだ。  
学生の本格的な就職活動スタートを前に、業界への理解を高めてもらうという目的で、(福田藍至)と呼び掛けた。

同社は数寄屋建築を手掛ける国内有数の建設会社。大山社長は講話で、数寄屋造りに関して「数寄屋はもともと茶室を指し、家に来る人をもてなすことを考えた建築。細工を凝らして美しさを追求する点で、数寄屋大工を極めれば全てのもので作れると言われる」と紹介。学生たちには「専門学校で学んだことをしっかりと生かせる会社を選び、芯を持った職人になってほしい」と呼び掛けた。(福田藍至)



## 今までの練習の成果を発揮 建築システム工学科1年生が2級建築大工技能検定に挑戦しました

建築システム工学科の1年生が2級建築大工技能検定実技試験にチャレンジしました。試験は朝8時45分からスタートし、12時15分までの3時間30分となっており、原寸の図面を起こして部材形成、墨付けをした後、部材を加工して製品にしていきます。

2級技能検定に挑戦した学生の対馬志織さんからは、「9月から課題に取り組み、時間が縮まらなかったのも、不安な箇所は自宅に持ち帰り何度も練習し、本番前の練習では時間内に課題を仕上げ、精度も上げることができました。特に一番力を入れて取り組んだことはカンナやノミの刃物研ぎで、朝のホームルーム前や放課後の時間を使って手工具の整備に取り組みました。検定では決して満足できる出来栄ではありませんが、大きなミスもなく制限時間内に完成させることができたのでホッとしています。」との感想がありました。

今回の検定では、受検者全員が制限時間内に課題を提出することができたので、実技試験の合否の結果が出るのが楽しみです。3月10日(金)の合格発表では、受検者全員に朗報が届くことを期待したいと思います。



## 県内企業への就職内定率は80%超 建築システム工学科学生全員の進路が決定(就職内定率7年連続100%)

建築システム工学科2年生の学校斡旋就職を希望した学生11名と自己開拓の学生1名全員の進路が全員無事に決定しました。インターンシップでの経験を活かしながら、学生全員が納得する企業へ就職内定をいただきました。本校の就職活動は、学生の意向などを丁寧に聞き、職場見学などをさせていただき、十分に時間をかけて、学生・保護者が納得した上で就職活動を行っています。丁寧な進路指導を行うことにより、企業への定着率も以前と比べると改善してきました。内定をいただいた学生達には、残りわずかな学校生活を有意義に過ごし、4月から内定している企業で活躍してくれることを職員一同祈っております。

株式会社大林デザインパートナーズ 内定



長谷川 瑠南

弘前学院聖愛高等学校卒業

私は、かねてから設計に携わりたいと考えており、学校では、建築計画や建築設計、設計製図の授業で基礎的なことを学び、2年生のインターンシップでは、建築設計事務所で設計の仕事させていただき、さらに設計の仕事に惹かれるようになりました。

将来は設計の仕事がしたいと考えていたので、就職は株式会社大林デザインパートナーズに応募し、内定をいただくことができました。株式会社大林デザインパートナーズでの仕事は、地元である弘前市に在りながら、「全国、そして海外のプロジェクトに携われること」や「市内にある弘前れんが倉庫美術館の設計・監理」に株式会社大林組が関係しているため、入社したら多くのプロジェクトに挑戦し、自分自身も成長していきたいと考えています。

